

# 基礎・基本の定着を図り、「書くこと」の力を高める指導の工夫

1 学校・学年・教科 中学校・全学年・英語 【宮代町教育委員会】

## 2 ねらい

基礎・基本の定着を図ることで、生徒の学習意欲の喚起につながっていく。「書くこと」の力を高めるために、英語の学力の要素の一つである語彙力の増強と、まとまりのある英文を書くことの活動の指導の工夫を図ることをねらいとする。

## 3 取組内容

### (1) 語彙力増強のための全校一斉の単語テストの実施

授業中も単語力を高めるために小テストを行っているが、全校で単語テストを実施することで、生徒の単語力向上への意欲の喚起につながっている。学年ごとに単語リストを配布し、その中から意味・書きの25題ずつの単語テストを実施する。テスト終了後は、結果を分析し、正答率を出すことで、どの単語が定着率がよいか否か等考察をして、課題を認識し、その後の指導に生かしている。

### (2) まとまりのある英文を書くことの活動の指導の工夫

「書くこと」の力を向上させるために、まず、年間指導計画を見直し、また、評価規準を見直すことで、教科書のどの単元で特に「書くこと」に力を入れた指導が可能であるか検討した。年間を通して、特に「書くこと」の活動に特化しているレッスンを焦点に当てて、評価規準、評価の方法、評価の決定に至る指導の工夫を行った。

<具体例1> 1年生 Lesson3 「家族や友達の紹介文を書く」 実施時期：6月

●評価規準：be 動詞(are, am)や学習した一般動詞を用いて、家族や友達の紹介文を書くことができる。

●評価方法：課題作文テスト(3回実施)

●評価の具体例

- ① be 動詞や学習した一般動詞を用いて、家族や友達のことについて紹介する文を書く。
- ② 接続詞 and, but を使い、文と文のつながりを考えて書く。
- ③ 英作文の数値目標を4文以上とする。

●評価の決定

上記の「評価の具体例」で示した①～③の条件について、できていれば○、そうでなければ×を補助簿に記入し、評価した。

A・・・○3個      B・・・○2個      C・・・○1, 0個

●評価の結果

A・・・41%      B・・・21%      C・・・26%

●考察

- ・ be 動詞の使い方がわからない。
- ・ be 動詞と一般動詞を同一の文で使う。
- ・ 一般動詞の意味と使い方がわからない。
- ・ 『主語＋動詞』の語順が定着していない。
- ・ 適切な接続詞が使えない。
- ・ 接続詞の意味がわからない。

<課題>  
→ 「語順」「動詞」「接続詞」  
に関する指導が必要

↓  
<改善策> ・ 「書くこと」に特化した年間指導計画の見直しが必要

<具体例2> 1年生 Lesson9 「ALTに手紙を書く」 実施時期：2月

●評価規準：規則動詞の過去形や既習事項を用いてALTに手紙を書くことができる。

●評価方法：課題作文テスト(3回実施)

●評価の具体例

- ①一般動詞の過去形2種類以上を用いて、ALTに手紙を書く。
- ②接続詞 and, but, so を使い、文と文のつながりを考えて書く。
- ③英作文の数値目標を5文以上とする。

●評価の決定

上記の「評価の具体例」で示した①～③の条件について、できていれば○、そうでなければ×を補助簿に記入し、評価した。

A・・・○3個      B・・・○2個      C・・・○1, 0個

●評価の結果

A・・・86%      B・・・11%      C・・・3%

●考察

- ・Lesson3(6月)で学習した頃は、数値目標ばかり気にしてしまい、接続詞 and, but を機械的に使っていた生徒が目立ったが、Lesson9(2月)を学習する頃は、英文を書くことのコツをつかむようになった。
- ・生徒に年間を通して英文を書くための数値目標を提示したことで、「少し頑張れば手が届きそう」という気持ちを持ち、意欲的に取り組めた。
- ・英文を書くことだけでなく、一般動詞のインプット活動を並行して行ったことで、動詞のバリエーションも広がり、『主語+動詞』の語順が定着してきたと考えられる。

#### 4 成果と課題

この取組を通して成果として、次のことが挙げられる。

- ・評価方法の見直しが図れたこと。
- ・評価規準の見直しが図れたこと。
- ・評価を見直すことにより指導が変わったこと。

今回の取組は、特に「書くこと」の力を向上させるために取り組んできたものであるが、主として2つの活動に焦点を当てて、指導に当たった。2つの活動とは、1つ目が、単語力の向上に向けて取組であり、2つ目は、まとまりのある英文を書くことの指導の取組である。「書くこと」の力を向上させていくためには、様々な指導方法があると思う。しかし、忘れてはならないのは、繰り返し指導していくことと、指導の一貫性を持って指導していくことが大切であると思う。

今後は、いかにまとまりのある、文脈を意識した文章を書けるように指導していくか、「書くこと」の評価方法と指導方法を研究していきたい。また、基礎・基本事項の確実な定着のための指導の工夫も併せて行っていきたい。